

# 蓼科高同窓会報

発行  
蓼科高等学校  
同窓会事務局  
0267-56-1015



## 母校の存続発展にさらに努力

同窓会長 芝間 教男

このたび、蓼科高等学校同窓会長となりました芝間教男と申します。(昭和50年3月普通科卒)

両角正芳前会長におかれましては、平成23年度から8年間会長を務められ、総会時におけるゴルフ・マレット大会の開催、また会報の創刊等多くの功績を残され、会員同士の交流の深まりにご尽力されました。

今回の選挙で立科町長とな

られた事に伴い、役員改選となり選任されました。

さて、私事ではありますが、高校時代の三年間は様々な想い出が残っており、多くの先生や友人に恵まれました。それは学校を、立科町全体で支え、きめ細やかなひとり一人を大切にされる校風があつて育てられたのだという事を、後になって知り、自分以外の学校へ行ったら今ほど成長はできなかつたらうなど、この年

## 魅力ある学校を目指し

校長 宮澤 和人

昨年4月より、第三十三代目校長を拝命いたしました宮澤和人でございます。

日頃より、芝間同窓会長様をはじめとする同窓会の皆様には、蓼科高等学校の教育活動全般にわたり、物心ともども格別なご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、私の着任からすでに十ヶ月が経過いたしました。この間に様々なことがございました。中でも残念なこと

ですが、長野県教育委員会で次年度の生徒募集人数が二クラス八十人へ決定がなされました。しかし、次年度で創立百二十周年を迎える伝統ある本校が、より魅力を増す学校として発展するために、私は次の四点に力を入れていきたいと考えています。

○「地域」授業などで実践している課題解決学習とポブラアカデミーとの連携によるAO入試等を利用した進学強化

になつて振り返っております。令和2年度、蓼科高等学校は明治33年10月開校以来、創立百二十周年を迎えます。

新年号「令和」を迎え、少子化の影響を受けて、募集定員の減など、様々な難問が押し寄せておりますが、今だからこそ、当校の維持・存続の為に、記念式典を成功させ、同窓会の活性化も図って行かねばと思ひます。

微力ながら、歴代の同窓会長の意思を引き継ぎ、母校の発展の為、努力して参りますので、皆様のご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

○「蓼科学」などで醸成された愛郷心の育成による、地元企業への就職増進

○特色ある部活動の活性化  
○更なる小中高との連携による、地元からの進学率の向上  
これらの取り組みをもとに情報発信を行い、学校と地域社会との良い循環がなされ、両者が発展できるシステムを構築することが私の理想です。

これからなによりも同窓会の皆様のお知恵をいただき、新たな教育課程を編成し新しい学校づくりに邁進していく所存でありますので、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。